

『SMILE V トラックスター』が 正確な原価計算と適切な資料を提供 「採算の見える化」により業績を好転



『SMILE V トラックスター』が提供する原価計算に基づくデータが、運賃交渉の強力な裏付けに

長野県を拠点に運送事業を展開する炭平ロジスティクス株式会社は、OSKの『SMILE V トラックスター』と『SMILE V 会計』を活用して、長年の課題であった取引先別・車両別の採算管理を実現。正確な原価計算に基づくデータの提示により運賃交渉の信頼性を高め、業績を大きく向上させている。さらに、案件を数値で把握できるようになったことで、管理職のコスト意識も定着した。事務作業の効率化とともに、組織文化の改革にもつながっている。

導入の狙い

- ・正確な原価計算に基づく採算管理の実施
- ・企業の方向性を定める経営資料の作成
- ・手作業による処理からの脱却

導入システム

- ・運送業向け販売管理システム『SMILE V トラックスター』
- ・基幹業務システム『SMILE V 会計』

導入効果

- ・数字に裏付けられた採算管理により収益改善を実現
- ・事務作業の省力化とペーパーレスを実現
- ・管理職のコスト意識が一気に向上

USER PROFILE

炭平ロジスティクス株式会社

【業種】運送業

【事業内容】一般貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備業

【従業員数】200名(2025年11月現在)

炭 SUMIHEI
LOGI LOGISTICS

法令遵守の経営で 長野県ユーザーの信頼を得る

炭平ロジスティクス株式会社（以下、炭平ロジスティクス）は、従業員200名、車両200台を有する、長野県を地場とする大手運送事業者だ。2024年10月に長野陸送株式会社（以下、長野陸送）と信州自動車株式会社（以下、信州自動車）の合併により設立され、長野県で複数の事業を展開する炭平グループの中核を担う。長野県内に11カ所の拠点を持つ同社の配送エリアは、関東、中京、関西、東北と広範囲で、定期・スポット輸送の双方に幅広く対応している。

専務取締役の北澤 憲孝氏は、「社会の発展や日常生活に不可欠な、セメントと米穀類を中心とした輸送に長年従事してきました。2024年4月にドライバーの時間外労働時間の上限規制が設けられましたが、弊社は以前からクリーンで働きやすい職場作りに努めています。働きやすい職場認証制度の『一つ星』を長野陸送として取得し、のちに『二つ星』も取得しました。社員一人一人が法令を守り、コンプライアンス経営を徹底する姿勢によって、荷主様との高い信頼を築いています」と説明する。

長野陸送と信州自動車が合併したことでは取扱商品や取引先は倍増した。それらはもともと重なっていなかったもので、車両・



「顔が見える物流会社」という思いを込めたロゴマークが目を引く車両。9色のバリエーションで走っている

人材の統合によって柔軟な対応ができるようになり、相乗効果を上げている。現在は運送事業が売り上げの90%以上を占めているが、今後、大型車両の修理や点検などを行う整備事業、米穀類などを安全に保管する倉庫事業にも力を注ぎ、ビジネス領域を拡充していく計画だ。

正確な原価の把握に向けて 最適なシステムを構築

運送業界は競争が激しく荷主の立場が強いことから、人件費や燃料費、修繕費などの上昇を運賃に反映させることが難しい。炭平ロジスティクスも同様で、運賃は据え置きのため、採算が年々悪化していることが懸念事項であった。2019年に長野陸送の役員に就任した北澤氏は、そのような

状況に危機感を覚え、真っ先に取り組んだのが「採算の見える化」であった。とはいえ、運賃の値上げ交渉を行う際の根拠となる原価データが社内にないため、「売り上げは増えているのに、なぜ赤字になるのか」「採算はどうなっているのか」を判断するためのデータの収集方法から考え始めた、という。

それまで利用していたオフコンの販売管理システムは請求書発行が中心であったため、まず手を付けたのは、Excelで簡易的な採算管理システムを自前で作成することであった。人件費や燃料費などのデータを毎月入力し、加工して車両別に原価を管理する仕組みを構築したが、車両数の増加につれてExcelシートの数も増え、間もなく手作業での対応は限界に達した。

そこで、2021年6月ごろから運送事業の採算管理が行えるパッケージソフト導入の検討を始めた。あわせて、今後ITに精通した人材が必要になるだろうと考えた北澤氏は、システムエンジニアの中澤 智恵氏を管理部に迎え入れ、実質的なプロジェクトをスタートさせた。

数社の製品を比較検討

専務取締役
北澤 憲孝氏

「『トラックスター』導入により、劇的に経営判断がスピードアップし、業績の大幅な改善が図れました。無駄な手作業も削減できています」



管理部 副部長
佐藤 洋樹氏

「管理職のコストに対する意識が一気に向上しました。とにかく売り上げが多い仕事であればよい、という意識であったのが、売り上げと収益の双方を意識した改善策を積極的に考えるようになりました」



炭平ロジスティクス株式会社

した結果、2021年10月にITベンダーであるDAIKO XTECH株式会社の提案を受けて導入したのが、運送業向け販売管理システム『SMILE V トラックスター（以下、トラックスター）』と基幹業務システム『SMILE V 会計』であった。

「今回のシステム導入の目的は、業務の効率化よりも、収支を把握し、運賃の妥当性を裏付けるデータを経営判断に生かすことでした。その点『トラックスター』は、運送業界ならではの商習慣に対応しているだけでなく、弊社が求める条件を満たした製品でした。得意先別や車両別の採算管理が可能で、適正運賃の交渉を行うための経営資料が作成できること。この目的に適している点が、選定の決め手となりました」（北澤氏）

『自由帳票設計業務オプション』で経営資料となる帳票を作成

『トラックスター』と『SMILE V 会計』のシステム構築において、主導的な役割を託された管理部の中澤氏であったが、マスターデータさえ存在していない、まさにゼロベースからのスタートだったという。しかし、一刻も早く正確な採算状況を把握したい、という北澤氏の強い思いを具現化するために、OSKの担当者と打ち合わせを重ねながら、取引先や車両別の収支がわかる仕組み作りを迅速に進めた。4か月という短期間で運用を開始し、2022年5月には



長野県須坂市の本社。
このほか、県内11カ所に拠点を構える

本稼働に入っている。

中澤氏は、『自由帳票設計業務オプション』を活用して、経営資料となる複数の帳票も作成している。たとえば、各取引先の収益性を詳細に分析するための「取引先別採算管理表」、標準原価・実際原価の管理が行える「車両別採算管理表」、各部門のパフォーマンスを可視化する「部門別業績管理資料」といった具合だ。

導入に際しては、OSKによるオンライン研修に加えて、中澤氏が自ら作成した画像付きの独自マニュアルを使い、毎日の入力作業を明確に伝えた。必要に応じて個別の操作指導も行いながら社内への普及を推進していった甲斐もあり、当初はほぼ毎日のように寄せられていた操作に関する問い合わせも、3か月後には落ち着いたという。『トラックスター』『SMILE V 会計』のシンプルでわかりやすいインターフェースもその一因であろう。

中澤氏は稼働までの一連の経緯を次のように語った。「スケジュールはタイトでしたが、会計への連携も含め、予定どおり運用を開始できました。事務スタッフも、自分たちが入力したデータが会社の経営にかかわってくることを理解して、自主的に

データチェックをするように変わっていききました」。

さらに、管理部 副部長の佐藤 洋樹氏が「これまで事務スタッフの業務の中心はデータ入力でしたが、デジタル化された情報をいかに管理するかに変わりました」と語るように、配車業務は『受注・配車オプション』を使用したシステム化が進んだ。人による記入や計算作業は大幅に削減され、すでに請求書のように一部の書類はペーパーレスで運用されている。

妥当性を裏付けるデータが迅速な経営判断をサポート

今回のシステム構築における最大の成果は、業績の大幅な改善と経営判断の迅速化だ。

「正確な原価計算に基づいた交渉を行うことで、荷主様の深い理解を得ることができ、適正運賃への改定を実現できました。その結果、業績は大きく改善しました。特に、かつては手間がかかる上に不採算であった米穀輸送が黒字へと転換し、今では事業の大きな柱へと成長しています。これには、長年現場を支えてきたドライバーたちも大変喜んでおり、モチベーション向上にもつながりました。また、データから『稼働率低下の原因は何か』『優先すべき改善

管理部
中澤 智恵氏



「私は運送業界のことを何もわからない状態でプロジェクトに加わりました。OSKや社内の方からさまざまな助言を受けながら、全員が同じ方向を向いてシステム導入に取り組めたことが一番の成功要因だと思います」

炭平ロジスティクス株式会社

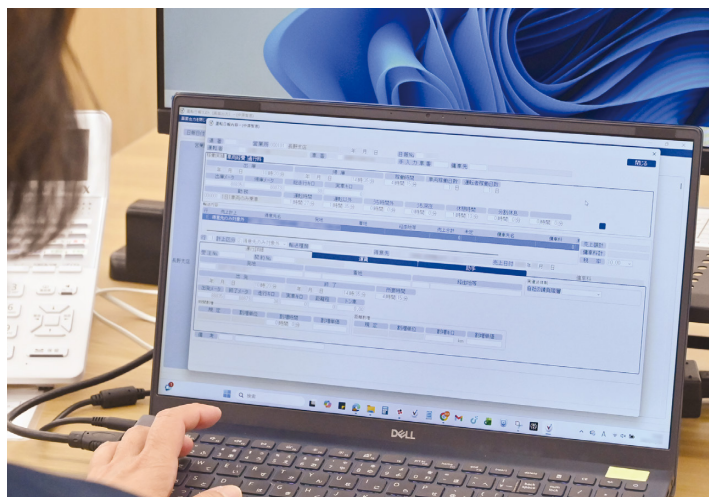
策は何か』といった客観的な分析が可能になったことで、経営判断のスピードが劇的に向上したことも大きな成果です」と北澤氏はその効果を語った。

さらに、社員の意識変革も著しい。営業所長などの管理職はデータという共通の「ものさし」を活用し、業績向上につながる議論を活発に行うようになったという。

佐藤氏は、「本社の管理職や営業所長は、中澤さんから届く経営資料に必ず目を通し、毎月の営業会議ではその資料を基に、業績が良かった理由や改善策を自分の言葉で説明しています。会議では建設的な意見が飛び交い、以前では考えられなかった光景です」とその変化を振り返る。

2023年11月には第2ステップとして、『SMILE V 会計』に『資産管理業務オプション』を追加導入。トラックなどの資産についての管理資料作成や減価償却計算、仕訳処理など業務を迅速かつ正確に行えるようになっている。

全車両のデジタルタコグラフ配備も完了し、今後は『トラックスター』へのデータ取り込みを行う予定だ。最終的には、デジタコ連携だけでなく勤怠や運行管理、会計まで一気通貫で自動化することを目指している。たとえば、今はデータを外部出力してExcel加工をしている管理資料を『トラックスター』内部で完結できないか、と考えてい



『トラックスター』に入力される日々の情報が、売上、あるいは原価データとして蓄積される

る。クラウド化も視野に入れながら、炭平ロジスティクスは蓄積されたデータとAIの活用により、的確な判断を行う「データドリブン経営」を推進していく。



炭平ロジスティクス株式会社のホームページ
<https://sumilogi.com/>

お問い合わせ